

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ 事務局活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ 研究・事例の紹介	6
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	8
➤ 会議・イベント案内	9
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	10

巻頭書記

今年も11月を迎え、街行く人々もすっかり秋の装いです。電車通勤や室内での作業ばかりだと、ただ気温の低下を感じるばかりで、一番きれいな季節の変化に気づかないまま毎日が過ぎてしまいそうです。週末は近くの河川敷を久しぶりに散歩してみるのもいいかもしれませんね。

本号では、事務局活動報告として、国内の水辺再生事例のホームページへの掲載のお知らせ、会員寄稿記事として、「水辺からのメッセージ No.6」と「フランスの水辺」をご紹介します。

今後も、引き続き、JRRN 会員の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

事務局活動報告

国内の水辺再生・約200事例をJRRN ホームページに掲載しました ～水辺再生事例写真を募集します～

JRRN では、ネットワーク活動の柱の一つとして、河川・水辺の再生事例を各国で共有する仕組みを構築するために、日本の再生事例の収集・整理を行ってきました。

本活動に関わるこれまでの経緯は、以下のJRRN ニュースレターのバックナンバーをご覧ください。

○JRRNニュースレター2008年9月号 活動報告1

[http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/01-0077\(200809-vol115\).pdf](http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/01-0077(200809-vol115).pdf)

○JRRNニュースレター2009年5月号 活動報告3

http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/Newsletter-vol23_200905.pdf

この度、約200事例の掲載が完了しました。また、英訳が完了している事例については、JRRNの英語版ホームページに掲載しています。

○JRRNホームページ「日本の水辺」

<http://www.a-rr.net/jp/waterside/domestic/>

このように、河川再生事例を体系的に整理し、ホームページを介して情報を共有化することは、中国や韓国をはじめとする諸外国との情報循環を活性化させるとともに、日本の優れた事例をアジアや諸外国へ発信することにつながります。また、価値ある

情報を国内へ提供することにより国内のネットワーク活動が更に活性化することも期待されます。

ふとホームページに立ち寄ってくれた方が、日本の各地で行われている河川再生事例を知り、河川再生や自分の身近な川に興味を抱くきっかけとなるような存在を目指し、今後も掲載内容やホームページの構成についても工夫していきたいと考えています。

さて、JRRN ホームページの「日本の水辺」をご覧くださいとわかるように、写真が未掲載の事例がまだ多くあります。画像は、言語無しで視覚的に訴えることが可能であり、大変重要な存在です。しかし、

河川に関わりの深い関係者がこれまでに収集した画像を振り返っても、事例を的確に伝える画像は少なく、画像データの収集の難しさ、貴重さを認識しました。

そこで、これら国内河川再生事例の集約に向けて、JRRN 会員皆様のご協力をお願いいたします。JRRN では、JRRN のホームページ「日本の水辺」に掲載する河川再生事例の写真を会員の皆さまから募集しておりますので、以下の募集要領に従い皆様がお持ちの貴重なお写真をご提供頂ければ幸いです。

(JRRN 事務局 沼田彩友美)

河川・水辺の再生事例写真を募集しています！

(1) 募集事項

JRRN のホームページ「日本の水辺」に掲載する河川再生事例に関わる写真を募集します。特に、写真未掲載の事例に関わる写真大歓迎です。

(2) 写真選出のポイント

ホームページに既に掲載している事例の説明文及び河川再生のカテゴリーをご覧ください、その内容に適した写真をご提供下さい。

〈ご提供頂きたい写真例〉 現在（再生後）の写真、再生前の写真等

庄内川の自然再生事例(愛知県)

庄内川および新川の河口部には、水鳥の飛来地として有名な藤前干潟が広がっています。しかし、庄内川下流部では、河岸に土砂の堆積が進んだため、河川敷の植物相がヨシからオギやヤナギ群落へと変化するとともに、農地やグラウンドとして利用されている場所では、冠水頻度の低下による貧相な水際植生が問題となっています。

そうした中、平成12年の東海豪雨が契機となり、河川敷を掘削し水際の勾配を緩くすることにより、河川敷の冠水頻度を回復させ、ヨシ原などの水際植生の再生する事業が実施されています。

このように、災害復旧計画においても自然再生の手続きを取り込まれています。

→RIVER FRONT 庄内川・新川河口干潟(藤前干潟)におけるモニタリング(2003/Vol.48)

By JRRN事務局 | カテゴリー: **自然豊かな河川再生事例, 中部** | コメント(0) | トラックバック(0) |

説明文

再生種類と地域のカテゴリー

(3) 応募方法

ご提供いただける写真は、お名前、連絡先、写真の撮影年月を明記の上、下記のメールアドレスに送付ください。

※ ホームページへは、写真提供者の氏名も掲載しています。掲載を希望しない方は、その旨をお知らせください。

●問い合わせ先: info@arr.net

●写真送付先: jrrn-secre@rfc.or.jp

●著作権等に関する詳しい説明: <http://www.arr.net/jp/info/letter/useterms/165.html>

会員寄稿記事 (1)

水辺からのメッセージ No.6

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

日本の秋景色：季節ごとにさまざまな表情を表す昭和記念公園の水のゾーン



撮影：2001年11月

◆色鮮やかな紅葉のグラデーション

国営昭和記念公園（148.7ha）のほぼ中央部、水のゾーンにある「水鳥の池」（5ha）には、広くバードサンクチュアリーがつくられています。また、武蔵野の豊かな森を背景に、水に親しめるようにボートを浮かべたにぎわいの空間が魅力的です。

◆公園づくりは“自然”を都市に取り込む隠れた最先端技術

水鳥の池は、多摩丘陵の礫層の上に防水シートを張って、広い公園区域から雨水を集めて水をためた人工の池です。周辺の日本庭園の池や溪流などとも水を循環させる計画を進めています。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

会員寄稿記事 (2)

フランスの水辺

財団法人リバーフロント整備センター 河川・海岸グループ長 柏木才助 (JRRN 会員)

フランスのマルセイユで開催された世界水会議 (WWC) 総会(2009 年 10 月)に参加した折、若干の水辺を見ましたので紹介します。



◆マルセイユのハーバー

マルセイユ市街中心部にあるハーバー（旧港）です。

約 2600 年前にギリシア人が利用したラシドンの入り江は、今、ヨットやプレジャーボートのメッカになっています。旧港の入り口には、左右にサン・ニコラ、サン・ジャンの要塞が見てとれます。入り江が細長いため、ハーバーの入り口から見ると川のようにも見えます。地中海の港らしい景観です。



◆ローヌ川支川のデュランス川

アヴィニオンでローヌ川に合流する左支川のデュランス川。マルセイユなどプロヴァンス地方の水源となっている川です。川沿いは見事な田園地帯となっています。

川の水量が少ないのは、この上流で発電用の取水があり、流域外で地中海海岸部にあるベール湖へ直接放流されているためようです。砂洲の状況が見てとれ、日本の川と雰囲気が似ています。

フランスの水辺(続き)



◆セーヌ川支川のマルヌ川

パリ市街北東、シャルルドゴール空港に近い田園地帯を流れるセーヌ川の支川です。舟運利用があるようで、街の近くでは川とは別に運河が作られています。

蛇行した流路、川岸の植生、ところどころにある島など、日本ではなかなか見られない景観です。大都市パリに程近い所でも、このような状況は普通のようにです。

河川に近接して、何箇所も池が形成されています。池ごとに水色が大きく異なっているのが見て取れます。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

研究・事例の紹介

韓国・良才川(ヤンジェチョン)における河川再生事例報告 ～韓国初の河川自然再生プロジェクトの概要と現在の様子～

前号に引き続き、韓国における河川再生事例をご紹介します。

本号でご紹介するのは、韓国初の河川自然再生事業として知られる、ソウル市南部を流れる良才川(ヤンジェチョン)です。2009年9月30日(水)に、KRRN(韓国河川再生ネットワーク)関係者の案内で現地を視察して参りましたので、写真を中心に報告させていただきます。

良才川は、1960年以降の急速な都市化により河川環境が悪化し、また洪水防御を最優先に河川整備が行われた結果、ソウル市内の多くの河川と同様に直線河道へと改修されました。



再生前の状態に近い、現在の再生区間上流部

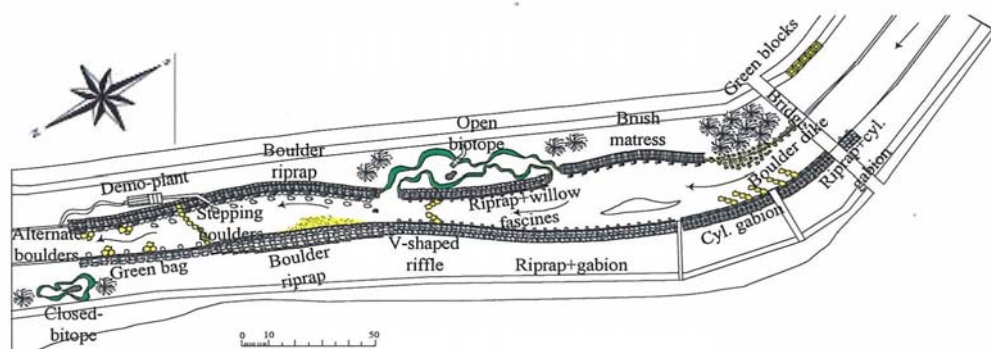
その後、韓国国内での河川環境再生の声の高まりを受け、1996年に韓国初の河川再生事業として、良才川再生計画の策定が国の主導により始まりました。

1998年に工事が完了し、以前の典型的な都市河川の直線流路から、捨石・カゴ工など様々な低水路護岸や曲線区間へのビオトープや河畔林設置など変化に富む景観的にも優れた川の姿に蘇りました。



再生された区間を望む

再生後のモニタリングでは、魚類の増加や、そのサイズも大きくなっていることが確認され、現在は近所の子供たちで賑わう都会のオアシス的な存在となっています。



再生区間の計画平面図(出典: KICT 韓国建設技術研究院提供論文

「Test of Some Selected Stream-Restoration Techniques Adapted to Mid-slope Urban Streams in Korea」)



変化に富む再生区間の様子



河畔林の下ではたくさんの魚が群れています

なお、良才川は、韓国国内でも最も裕福な地域を流れる都市河川でもあります。そのため、地域住民からの河川環境改善に対する要望も多く、河川管理者であるソウル市は、親水施設の設置や自然環境保全など良才川の環境改善に積極的に取り組んでおり、本自然再生区間以外でも様々な親水性向上のための工夫が見られたのが印象的でした。



良才川沿いに建つ韓国の最高級マンション

コラム～ソウルの地下鉄駅にて配られる無料雑誌

日本では、首都圏の主要な鉄道駅、コンビニ、書店等で「R25 (アールニジュウゴ)」というフリーペーパー週刊誌を入手することができます。

実は、韓国のソウルにおいても、主要な地下鉄駅などで無料配布されている「M25」という雑誌が存在するのをご存じでしょうか？



この「M25」の最新号（2009年10月26日～11月1日版）の中で、昼休みのお勧め散策ポイントとして、今回ご紹介させて頂いた良才川が登場していました。



M25 最新号での良才川紹介記事

また、新聞紙面で最近よく見かける日本人観光客誘致を目的とした韓国観光公社の全面広告では、ソウル市内を流れる清溪川が大きく PR されています。

こうした記事を見ていると、韓国においては再生された河川が市民の貴重な財産として認識されていることがよく判ります。

(JRRN 事務局 和田彰)

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 個人会員より、アメリカにおける河川自然再生に向けた最近の取り組みを紹介した新聞記事情報「より多くのプロジェクトがアメリカの河川をそれらの自然の状態に戻している」をご提供頂きました。この英文記事の日本語仮訳資料もご提供頂きましたので、以下よりダウンロード可能です。(言語：日本語)

→ <http://www.a-rr.net/jp/exchange/docs/04-0012.pdf>

また、本記事を扱ったオリジナルの英文ホームページは以下よりアクセス可能です。(言語：英語)

http://www.usatoday.com/news/nation/environment/2009-10-05-river-restore-work_N.htm



【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 事務局を担う財団法人リバーフロント整備センターからのイベント案内です。

11/14 (土)～15 (日) の日程にて柿田川シンポジウムを開催します。ご都合のよい方は是非とも参加して頂きたく御案内申し上げます。

■第6回柿田川シンポジウム『柿田川、「水」を見つめる。「水」を探る』

○主催：柿田川生態系研究会

○後援：国土交通省沼津河川国道事務所、清水町、沼津市水道部、柿田川みどりのトラスト、柿田川湧水保全の会

○開催日時：11月14日(土) 14:00～17:00

○場所：沼津市民文化センター・大会議室
(静岡県沼津市御幸町15番1号)

○詳細情報は以下にアクセス願います。

http://www.rfc.or.jp/news/20091016_kakitasympo.pdf

韓国河川再生ネットワーク(KRRN)提供情報

韓国4大河川再生事業の概要説明資料(日本語版)

ARRNの韓国窓口組織である韓国河川再生ネットワーク(KRRN)より、現在韓国で実施中の「韓国4大河川再生事業」に関する事業計画説明資料(日本語版)をご提供頂きました。

本事業は、ソウル市長時代に「清溪川再生事業」を成功させた李明博大統領による「韓国版グリーンニューディール政策」として打ち出されたものです。

資料は以下よりダウンロード可能です。(日本語)

→ http://www.a-rr.net/jp/exchange/docs/4RiverRestoration_KOREA.pdf



韓国河川再生ネットワーク(KRRN)提供情報

■第8回生態水工学国際シンポジウム ISE2010

ARRNの韓国窓口組織・KRRNの前事務局長より、2010年9月に韓国・ソウル市で開催されるISE2010のご案内を頂きました。来年度ARRN国際フォーラムは本行事の別セッションとして開催予定です。

・開催時期：2010.9.12-16

・開催場所：韓国・ソウル市

→ <http://www.ISE-2010.org>

イギリス河川再生センター(RRC)提供情報

■11th River Restoration Conference 2010

ヨーロッパ河川再生センター(ECRR)の英国窓口を担う「イギリス河川再生センターRRC」より、2010年河川再生会議の論文募集に関するご案内を頂きました。

・開催時期：2010.4.14-15

・開催場所：英国・University of York

→ http://www.therrc.co.uk/rrc_conferences.php

会議・イベント案内 (2009 年 11 月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■【JRRN 会員限定公開行事】「中国湖北省水利庁視察団との河川再生に関わる意見交換会」

- 日時： 2009 年 11 月 13 日 (金) 午前中 ※言語：日本語 (中国語の逐次通訳あり)
○会場： 財団法人リバーフロント整備センター 会議室 (※2009.6.1 に事務所が移転しました)
○定員： 5 名 (JRRN 会員限定・申込み先着順) ※オブザーバー参加ですが、意見交換にはご参加頂けます。
※ 申込方法等の詳細はこちら→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/1730.html>

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■第 10 回東京湾シンポジウム

- 日時：2009 年 11 月 6 日 (金) ～7 日 (土)
○主催： 東京湾の環境を良くするために行動する会他
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1725.html>

■安全・安心でおいしい地下水サミット

- 日時：2009 年 11 月 10 日 (火) 13:00～16:00
○主催： 安全・安心でおいしい地下水連絡協議会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1584.html>

■第 7 回 環境研究機関連絡会成果発表会

- 日時：2009 年 11 月 11 日 (水) 12:00～17:30
○主催： 環境研究機関連絡会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1731.html>

■第 6 回柿田川シンポジウム

- 日時：2009 年 11 月 14 日 (土) 14:00 - 17:00
○主催： 柿田川生態系研究会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1720.html>

■シンポジウム～河川等における生態系保全に向けて

- 日時：2009 年 11 月 17 日 (火) 13:30～17:30
○主催： 社団法人産業と環境の会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1742.html>

■第 138 回 河川文化を語る会『近世大阪の水辺景観とその後の変貌』

- 日時：2009 年 11 月 19 日 (木) 18:00～20:00
○主催： (社) 日本河川協会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1569.html>

■矢作川フィールドシンポ～持続性を目指す流域圏

- 日時：2009 年 11 月 20 日 (金) ～21 日 (土)
○主催： 応用生態工学会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1732.html>

■第 2 回 河川環境管理財団北海道事務所研究発表会

- 日時：2009 年 11 月 26 日 (木) 13:00～17:30
○主催： 財団法人河川環境管理財団
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1734.html>

■河川・流域の管理と連携

- 日時：2009 年 12 月 4 日 (金) ～5 日 (土)
○主催： 応用生態工学会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1733.html>

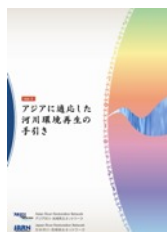
■第 139 回 河川文化を語る会「一植物学者がみる河川」

- 日時：2009 年 12 月 7 日 (月) 18:00～20:00
○主催： (社) 日本河川協会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1583.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1

- ・ 発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・ 価格： 無 料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「(財) リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■ 環境を知るとはということか (2010.9 発行)

- ・ 著 者： 養老 孟司・岸 由二
- ・ 出版社： PHP 研究所
- ・ 発行年月： 2009 年 9 月
- ・ 価格： ￥ 840 円 (税込)
- ・ ISBN： 978-4569773056



本書は、「流域思考」を提唱する解剖学者・養老孟司氏と生物学者・岸由二氏の両著者による対談を中心に構成され、環境問題の本質を理解する上で役立つ一冊です。本書の中で JRRN の話題も登場しています。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

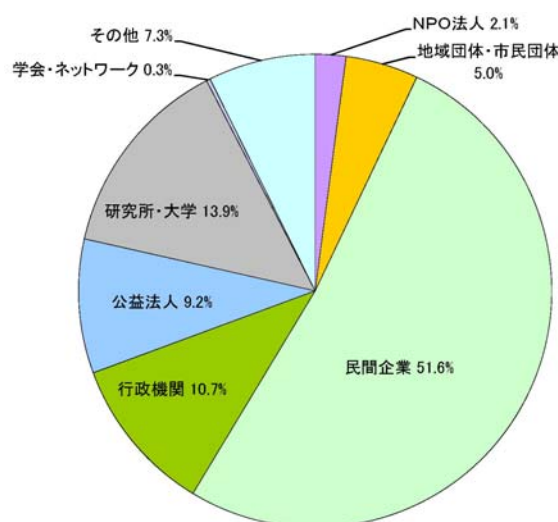
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参
加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河
川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支
援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2009 年 10 月 31 日時点の個人会員構成
(個人会員数：389 名、団体会員数：13 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ 内

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 ロフテ中央ビル7階

Tel: 03-6228-3860 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>